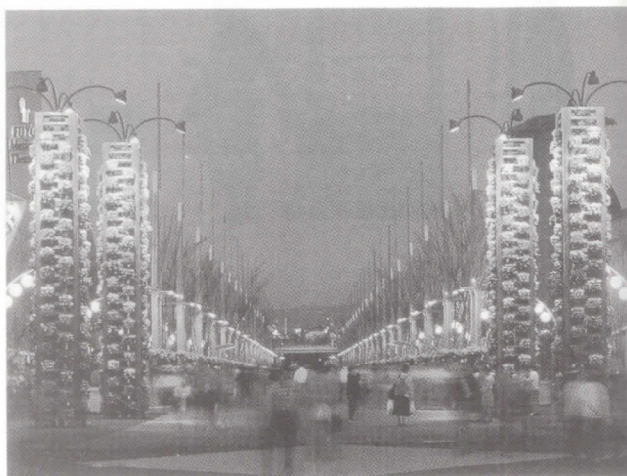


2-6 モールライトデザイン

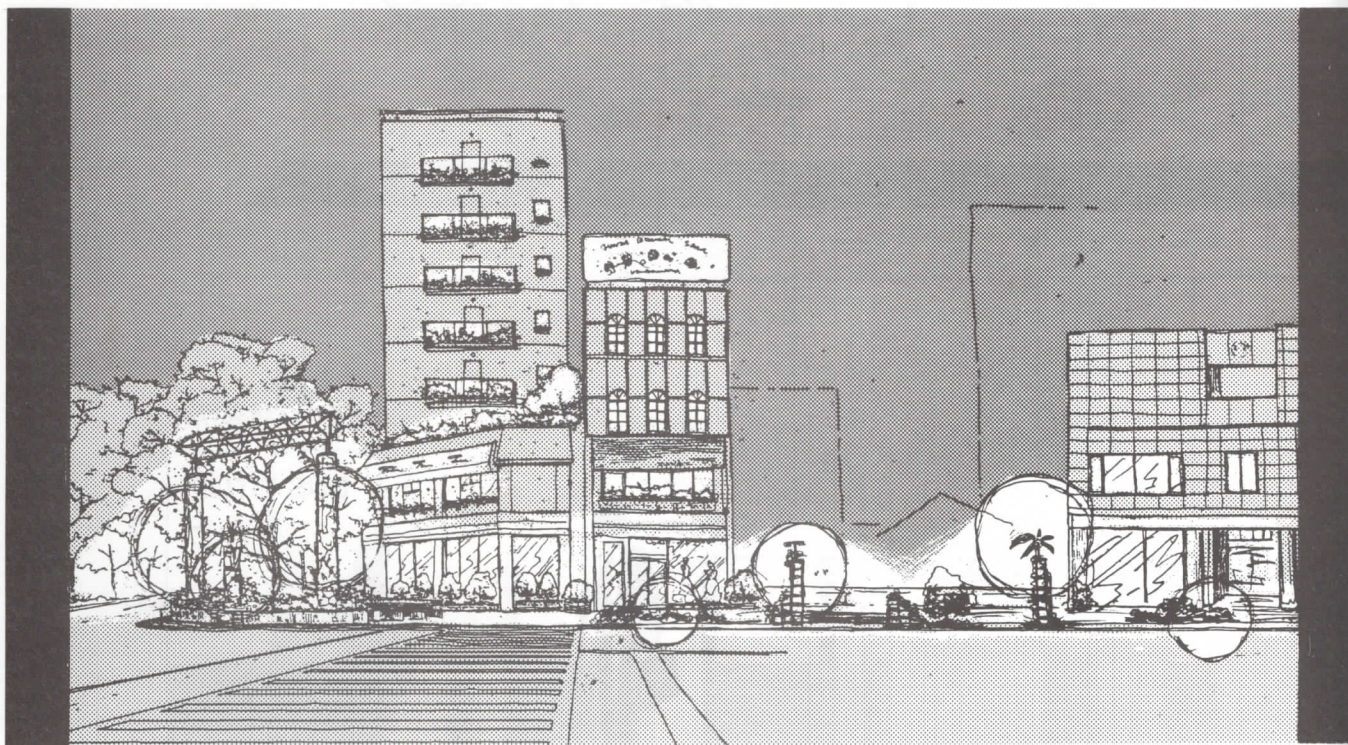
商店街の街灯の役割

1. 歩行や防犯上の安全性の機能。
 2. 街の快適性、にぎわいの向上。
 3. 商店街の一体感、アイデンティティの創出。
- 基本的に低ポール照明方式によるが（10～15mおきに1灯）、低位置照明方式をポイント配置し、モールにリズム感をあたえる。
 - 建物直付方式については、個店、商品のイメージにあい、ファサード、サインと一体となったデザインとし、統一照明はさける。



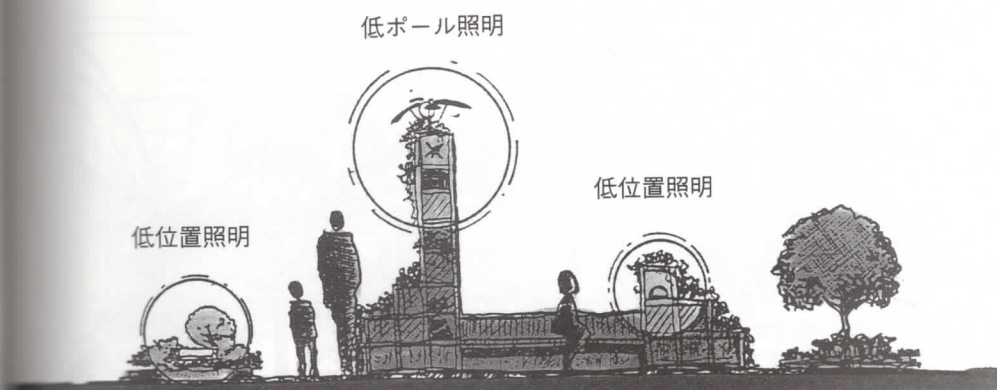
プラザの照明演出

テーマをもったモニュメントをライトアップすることにより、光のファンタジックな演出をはかる。また、モニュメント廻りの植栽には、植え込み灯を使用し、花、緑、水、一体となった演出をはかる。



街灯デザインの考え方

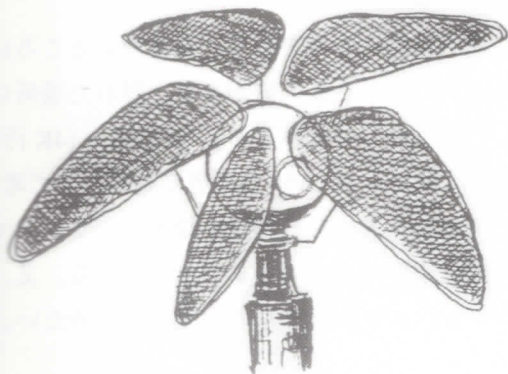
商店街の街路灯は、目立ちやすく人々の注目を集める。明るさが要求される夜間ばかりでなく、むしろ昼の方が重要な要素になってきている。街灯そのものにより、商店街のイメージを造りだすことができる。そのためには、デザインの要素がより重要である。



2. オリジナル照明

ファニチャー・アートコラム一体型において照度不足となる部分について、オリジナル照明を考える。たとえば、図示のようなCI事業で決定したシンボルマークをアレンジした照明など考えられる。

- パンチングメタルによる傘。穴からもれる「あかり」と「影」による演出。
- 光と面との同化。光の方向により鏡面ともなる。
- 昼間オブジェとしての存在価値をもたせる。



1. ファニチャー・アートコラム一体型

バス停、ベンチなどのファニチャーやアートコラムに照明を設置することにより、既製品の単調なポールが不要となり、親しみのあるモールが生まれる。

低ポール照明

- 路面の明るさの確保
- 「光と影」を組合わせた光のアクセント効果
- 人の近くに位置するため存在感が大きい

低位置照明

- ポイント照明
- 光の強いアクセントづくり
- メンテナンスが容易

3. 植栽の照明演出

低位置照明を花壇の中に配し、花をあざやかに、樹をみずみずしく見せる。昼間にはない花のもう一つの魅力をひきだす。

イルミネーションライト（ツリータイプ）を街路樹にからめ、連続的な光のキラメキで通りを形成する。

